

豊後大野警察署協議会

第2回会議の開催状況

第1 開催月日

令和4年10月11日（火）

第2 出席者

協議会 委員 5名
警察署 署長、副署長、総務会計課長、生活安全刑事課長、地域交通課長、
警備課長 6名

第3 議事の概要

1 業務説明等

警察署から

- ・業務重点推進状況

について説明がなされた。

2 主な意見等

(1) 運転免許の返納状況について

委員から「豊後大野市は、高齢者率が非常に高い。豊後大野市における高齢者の運転免許返納状況について教えて欲しい」旨の質問がなされ、警察署から「今年8月末現在で、県下の運転免許返納総数が3,300人であった。うち、当署管内在住の方が121人で、県下全体の3.6%である」旨の回答がなされた。

(2) ブレーキアシスト機能搭載車について

会長から「緊急停止装置等が搭載された車が普及しているが、交通事故は装置を搭載していない車の方が多いのか。また、装置が付いた車で、事故を防げたという事例はあるのか」旨の質問がなされ、警察署から「統計資料が手元になく即答できないが、ブレーキアシスト機能搭載車に乗っている方は少ないと思う。今後、好事例があれば講話等で紹介し、交通事故抑止に役立たせたい」旨の回答がなされた。委員から「高齢者の多くは『車は止まるもの』という感覚がある。高齢者をはじめとした歩行者の特性についても、講話等でドライバーに呼び掛けて欲しい」旨の意見がなされた。

(3) 車両の駐車方法について

委員から「商店街の駐車場に頭から駐車した車が突然バックしてひやりとした。バックで駐車していた方が事故も起こりにくいのではないか」旨の意見がなされ、警察署から「警察としてもバック駐車を推奨しているが、一部店舗では頭から止めて下さいという所もあり、状況に応じて、今後講話等で呼び掛けていきたい」旨の回答がなされた。

(4) 交通死亡事故及び携帯電話の「ながら運転」について

委員から「先日発生した交通死亡事故だが、自分の会社の近くに住んでいた方で、近隣住民から『おばあちゃん、危ないな』という声があがっていた矢先に事故が起きた。何とか地域の方で防ぐことはできなかったのかと思うと非常に残念でならない。是非、このことを講話等を通じて話して頂きたい」旨の意見がなされた。更に「運転中の携帯電話の『ながら運転』をよく見かけたが、最近どうか」旨の質問がなされ、警察署から「未だに『ながら運転』をする違反者が散見される。今後、取締りを含め、講話の場や巡回連絡等を通じて広報していきたい」旨の回答がなされた。

(5) 大規模自然災害発生時の通報について

委員から「大規模自然災害が発生した際、警察に通報すべきか、消防に通報すべきか、各々の役割がよく分からない」旨の意見がなされ、警察署から「事態が悪化する前に、すぐに通報することが大切で、警察、消防どちらに通報しても構わない」旨の回答がなされた。

(6) 水難事故防止に向けた取組について

委員から「前回もお話ししたが、水難事故防止の観点から危険水位の一定基準を設けるべきではないか」旨の意見がなされ、警察署から「前回お話を頂き、消防に確認したところ、管内には国土交通省の監視カメラが4か所あり、一定の水位を超えた際に国土交通省から河川事務所、市、消防に連絡がいき、防災無線等で注意喚起しているとのことであった」旨の回答がなされた。更に委員から「このくらいの水位になったら泳ぐのを止めましょうというある程度の基準を設け、水遊び等をしている方にアナウンスができれば、もっと水難事故の抑止につながるのではないかと思う」旨の意見がなされた。